



## —湾岸・アラビア半島地域ニュース—

### イラン：鳩山由紀夫 元総理の訪問について

今般の鳩山由紀夫元総理のイラン訪問（4月7～8日）に関し、同行した大野元裕民主党参議院議員（当調査会客員研究員）より、イラン問題の現状認識、今回訪問の意義と概要などについて以下の報告が寄せられました。

今回の訪問の詳細と今後のイラン情勢分析は4月13日発行の『中東分析レポート』R12-009（会員限定）をご参照願います（当調査会ホームページには4月16日に掲載予定です）。

客員研究員 大野 元裕

4月6日（日本発）～9日（日本着）の日程で鳩山代議士（元総理）と共にイランを訪問してきました。三面記事的な関心はさておき、イラン情勢については、中東に関係する多くの企業・関係者の皆様にとり大変気にかかる問題と思われまるところ、小生の私見を交えて以下の通りご報告いたします。

#### 1. 問題意識と現況

- (1) イラン問題が抱えるリスクは大きい。第一に、武力行使が行われる場合、中東地域の不安定をもたらす可能性がある。イスラエル側からの武力行使となれば、アラブ世界で混乱が拡大するだろう。第二に、すでに数多く指摘されているエネルギーの問題がある。第三に、国防権限法への各国の対応をめぐり、米国の相対的な力の衰退が印象付けられ、あるいは米大統領選挙への影響も考えられる。
- (2) 日本にとっても問題は深刻である。中東地域の不安定への対処やイランとの将来の関係、福島以降、切迫するエネルギー問題への影響等が挙げられる。すでに、エネルギー問題に直面する中で油価が上昇し、イラン国内の日系企業が工場の閉鎖をせざるを得ない等、日本への影響はすでに現われ始めている。

#### 2. イラン訪問の概要

鳩山さんからイラン訪問を持ちかけられ、慎重に対応することを約束していただいたうえで、同行した。上述のような認識に立ち、「武力行使となれば、我が国が大きな打撃を受ける。それにもかかわらず、我が国はイラン問題協議の蚊帳の外に置かれ、決められたことに従うだけでよいのか」と考え、手をこまねくべきではないと考えた。

今回の訪問ではアフマディーネジャード大統領を始めとするイランの高いレベルの要人

に対し、「圧力と対話」を継続する国際社会の声を正確に届け、事態の深刻さを認識させるべく、友人として厳しいことを申し上げるとの態度に終始した。会談はいずれも中身の濃いものであったが、武力行使の事態を回避するためには、イランが国際社会の声に応じて具体的な一歩を踏み出すことが唯一の手段と働きかけた。また、イラン側が原則的な立場を繰り返したのに対しては、かかる哲学論議が現在の状況を打開するとは思えないとする一方で、我が国は40年間以上IAEAと協力し続けてやっと核兵器を持たないと確信されるようになったのであり、具体的且つ辛抱強い態度が必要と述べた。

イラン側がわらをもつかむ思いで、この訪問を「利用」しようとするのは当然であり、それは織り込み済みであった。イラン側は「IAEAが特定の国にダブル・スタンダードを行っている」と鳩山氏が述べたと報じたが、この報道は虚偽であり、帰国後、虚偽報道の謝罪に訪れたイラン大使館臨時代理大使に対しては、「このようなプロパガンダで貴重なパイプを無駄にするのはイランのためにならないので、よく考えるべき」と釘を刺しておいた。

いずれにせよ、現在のイラン情勢については注意深くではあるが、手をこまねていることは許されない。